

レファレンス
余 話

海外からの日本の学術情報に対する要求が高まっているが、官庁・国際機関資料室のカウンターでも、官庁出版物の英語版への問合せが増えてきている。

最近の電話レファレンスで、Management and Coordination Agencyの“Report on the survey of research and development”の所蔵調査があった。日本の官庁出版物の英語版の検索の定石として、①当室のカード目録「国内官庁刊行欧文資料目録」②「外国逐次刊行物目録」(データベース, S001)③外務省広報課監修「政府及び政府機関等の海外広報資料リスト」④「政府刊行物等総合目録」などがあるが、前述の資料はこのいずれでも見つからなかった。総務庁の資料なので日本語版はどうなっているかと思ひ「国内逐次刊行物目録」を調べると「科学技術研究調査報告」で、他言語標題として“Report on…”が注記してあった。統計書にはよくあることだが、見出し語が英文併記となっていて、英語版として別に刊行されたものではないのである。他言語標題はアクセスポイントとなっているので、国内逐刊でデータベース検索はできるが冊子体では検索できない。ただし、この時は落としてしまったが、科学技術分野に関しては「日本科学技術関係逐次刊行物総覧」が、すべての採録誌に英語タイトルを付与しているので、この種の検索には威力を発揮する。

もう1つの例は、友人がアメリカ人から問合せを受けたもので“Harashima, Yoichi:Meiji Japan through woodblock

prints, Tokyo Univ. Press.刊年不明”である。これもいろいろ検索したがわからなく、たまたま別件で書庫で調べものをしていた時に、国立史料館編の「明治開化期の錦絵」(1989)を見つけたという。英語タイトルは表紙に1行書かれているにすぎなかった。和図書の目録では他言語標題はとらないので、データベースでも検索できない。各国で日本研究が盛んになるにつれて、英文研究書の参考文献にあるものが、洋書として刊行されたものか、もともと日本語の本なのか、頭を悩ませるケースが増えてくるであろう。

先日はカウンターに、日本における麻薬の実態を調べている日本語のできない外国人が来た。日本のテーマで日本語ができないというのは困るのだが、国連資料から、ヤクザ・暴力団などの背景に到るまで巾広く調べたいという。件名カード目録の検索をすすめたが、日本語件名であるためにひけないとのこと。その時に厚生省から取り寄せたばかりの“Brief account of drug abuse and countermeasures in Japan”を紹介した。これは「麻薬・覚せい剤行政の概況」の英語版であるが、前述の目録類からは出てこない非売品である。当課では大学図書館からの文書レファレンスでこの資料の存在を知ったのであるが、一般的にはこの資料の存在は把握できない。ところがこれがUSMC(米国議会図書館データベース)には入っているのである。たまたま入手したものであろうが、これも最近とみに関心が高まっている灰色文献ということになる。日本語資料でさえ灰色文献の把握は難しい、まして、英文においてをや…である。

(官庁資料課 富田美樹子)